

「タイ・フィールド調査参加報告書」

京都大学文学研究科修士2年 吉田絵弥

【プログラム内容・学習成果】

プログラム内容は、(1)タマサート大学での講義、(2)フィールドワーク、(3)学生ワークショップが中心でした。

(1)講義ではタイの社会文化、ASEAN、オーガニック農業を主に学びました。タイで講義を受けることにより、タイ社会・経済に関してより深い知識を得ることができました。質疑応答では、例えばタイでも看護師や介護士が不足しているにもかかわらず、日本とのEPA交渉の際に受け入れを要請したのはなぜか、など、疑問に思っていたことを聞くことができました。

(2)フィールドワークでは、国連や世界銀行など国際機関と、オーガニック農業関連組織を訪問しました。私はこれまで国際機関を訪れたことがなかったため、国連や世界銀行でタイでの経済開発事業について聞き、その世界での役割を知ることは勉強になりました。オーガニック農業に関しては、訪問した組織の熱心な取り組みに感銘を受けましたが、タイではなかなか広がらないという問題も同時に学びました。また、帰国直後に関連するプログラムで京都の旧京北町のオーガニック農家を訪問しましたが、その際日本のオーガニック農業を考える上でのよい対称軸にもなりました。

(3)学生ワークショップでは、タマサート大学・チュラロンコン大学と合同で研究報告をおこないました。英語での研究報告の経験をつむと同時に、同世代のタイの大学院生の報告を聞き議論をすることで、日本以外の学生の研究について知るとともに、例えば関心をもっていたタイでの移民問題に関して率直な意見交換をして学ぶことができました。

プログラムを通して、一体化していくASEAN諸国を実感をもって再認識すると同時に、タイを含むASEANとの関係は日本にとっても重要であり、今後よりよい関係を築いていくことの必要性を改めて感じました。

【海外での経験】

タマサート大学のASEANコースの学生と交流する機会がありました。タイの他にベトナムやインドネシアの留学生もいて、その国の社会や文化について話すことができました。

また、今回参加した8人の京都大学の学生のうち、日本人は私だけでした。常に英語で会話をして、ディスカッションでは積極的に発言をおこなう留学生と共に10日間過ごすことは大変有意義でした。彼らに負けないよう積極的に会話に加わり、英語でアカデミックな議論をする力を高めることができました。しかし、難しい話になると、英語運用能力の不足を感じるが多かったため、今後取り組んでいかなければならないと思いました。

【進路への影響】

私の専門は社会学ですが、少子高齢化をテーマとしており、この問題を考える上では経済が重要です。またタイを含むASEANの国々も高齢化しています。今回の経済学のプログラムを通して、私の研究をより大きな視野で見ることができるようになったと思います。

また連携するASEANをみて、関係悪化が進む東アジアについて考えさせられるところも多かったです。将来、日本のため、世界のために働きたいという思いを強くしました。

このような貴重な機会をいただきありがとうございました。